

■ポスターセッションから見た「学びに向かう力」

2月10日に探究型職場体験学習の一環で奈良市ポスターセッションを実施し、市内全ての中学校の生徒代表の50人が、職場体験で学んだことを発表しました。

その中で、これが新学習指導要領でめざしている「学び」ではないかと感じた場面がありました。

「もはや日常不可欠な存在～ロボット～」というテーマで発表している生徒がおり、

私はこのテーマに興味を持ち、彼の発表を聞くことにしました。彼は「自分の普段の活動は、将来世の中のために役立つのか」を課題として設定していました。自分の普段の活動とは、ロボットを作っている科学部の活動や、生徒会活動やボランティア活動のことだそうです。

彼は、職場体験ではこの課題になかなか納得のいく答えは見出せなかったそうです。

その後、担任から奈良市が主催する起業体験推進事業を紹介され、昨年12月に東京で開催された国際ロボット展に参加しました。国際ロボット展では、通訳してくれるロボットや自動洗濯物たたみ機など、日常生活に役立つ最先端のロボット技術を目の当たりにし、自分の普段の活動が、将来世の中での役に立つことに繋がっていると実感したそうです。

つまり、彼の「もっと知りたい」「もっと学びたい」という思いが、ロボット展に行くチャンスにつながり、彼の学びが深まったのだと思います。自分から次の学びにつながると思う思いは、学びの原点です。これは新学習指導要領で言われている「学びに向かう力」の一つであり大切に育てていきたい力です。

また、彼は職場体験では思うような答えを見つけられずにいましたが、担任が彼のモヤモヤした気持ちを受け止め、次の学びへ導いたのです。このように探究的な学びには、子どもの「もっと知りたい」「もっと学びたい」という気持ちを次の探究的な学びへつなげる教員の働きかけが欠かせません。担任の声かけが、彼の主体性を引き出したのだと思います。

■自ら学び、自ら考える教育への転換

知識を教え込む教育から、子どもたちが自ら学び、自ら考える教育への転換は、20年以上前の平成8年の中央教育審議会の答申で示されていました。しかし、授業改善がなかなか進んでいない実態があります。新学習指導要領では、初めて「主体的・対話的で深い学び」という「学び方」にまで踏み込んだものとなっています。

これからの変化の激しい社会を生きていくためには、従来のように知識をたくさん覚えて、一つしかない答えを速く見つけること以上に、いくつかの答えの中から最善の答



えを見つけたり、これまでなかった新しい価値を見つけたりする力を身に付けていく必要があります。つまり、子どもたちが自ら学び、自ら考える教育へ転換しなければなりません。今回の学習指導要領の改訂には、このような転換に向けた強いメッセージが込められているのだと思います。

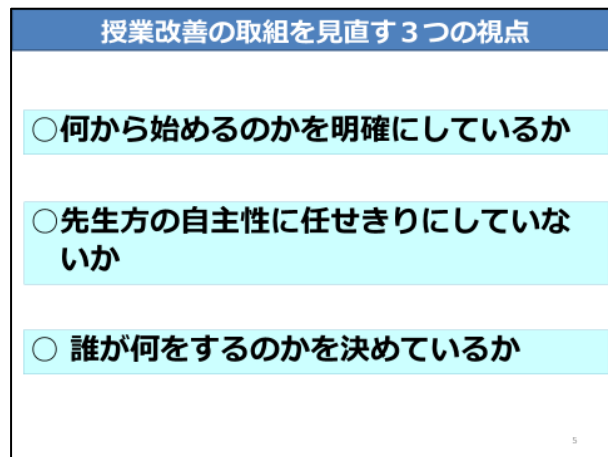
■授業改善を始めるために

「子どもたちが自ら学び、自ら考える教育」をめざして、授業改善に向けた取組を学校で進めるためには、次の3つの視点から学校の取組を見直すことが必要だと思います。

1つ目は「何から始めるのかを明確にしているか」という視点です。学校ではしなければいけないことがたくさんあります。その中で何から始めるのかという優先順位を決めて、そこから始めて欲しいのです。

2つ目は、「先生方の自主性に任せきりにしていないか」という視点です。「社会は変わっていく、授業を変えないといけないからがんばれ」の言葉だけでなく、どのように授業改善が進んでいくのか見守り、必要に応じて声をかけることが大切です。

そして3つ目は、「誰が何をするのかを決めているか」という視点です。校内で突破口を開いて引っ張ってくれるリーダーとなりうる人を決めて、取組を進めるべきだと思います。



■チェンジメーカーを誰にするか

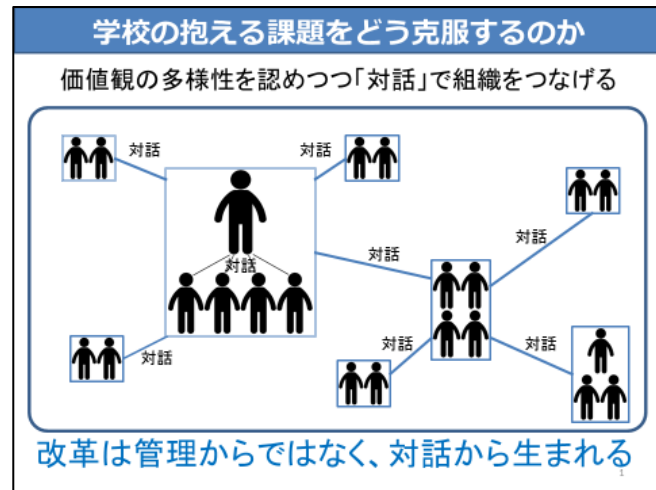
私が中学校長をしていた頃、学校の在り方を大きく変えていかなければならない時や、改革に取り組まなければならない時、職員みんなと一緒にになって取り組むのはなかなか大変なことでした。私は自分の考えを理解してくれ、行動を共にしてくれる教員、いわゆる「チェンジメーカー」になる教員が何人かいれば変わっていくと思います。大規模校でも最初は5人いれば学校は変わっていくとこれまでの経験から感じています。

チェンジメーカーは、校長と気が合う仲間や話しやすい仲間などの単なる友達集団ではありません。チェンジメーカーは「改善の方向性を示してくれる人」「教育について語れる人」「協働的なことをしっかり考えられる人」「他者を力づける人」などそれぞれ

の強みは違って構いません。多様なメンバーで、戦略的なチームづくりを行ってください。そういった人たちを集めたら、機会をとらえて校長先生は自身の言葉で自分のビジョンを語り、夢を共有できる関係を作っていってほしいと思います。

■校長の対話から進める学校改革

平成 28 年 4 月の校長会で、「リーダーに必要な 3 つの資質」について話しました。3 つの資質とは、「自分の頭で世界や将来を見通す洞察力」、「自分の考えをステークホルダーに語って説得する力」、「組織を動かす力」のようですが、その中でも今、学校改革を進める校長先生に一番必要だと思う資質は「自分の考えをステークホルダーに語って説得する力」だと思います。



学校の中でチェンジメーカーになりうる人には自分とは異なる価値観を持つ人もいるでしょう。まずは、組織の中に多様な価値観があることを認識し、受け入れることが大切です。そして、異なる価値観の中でも「のり代」となるような部分を見つけ出し、丁寧につないでいくことが必要です。校長先生方自身が夢や志を持って、自分はこんな教育をしたい、こんな子どもを育てたいと教員と対話してください。しっかりと対話していくことで、校長先生の情熱が、教員にも伝わり、改革が進んでいくのです。

校長がチェンジメーカーと対話し、さらにチェンジメーカー自身も他の人との対話を通して、組織の中にある多様な価値観をつなぐことが重要になります。改革は管理ではなく、対話から生まれるのではないかと私は考えています。